

# ユーゴのイエレナさんが綴る



友人宅で巻きズシづくりに挑戦  
(左が筆者)

私はシミヤノヴィッチ・イエレナと申します。23歳です。ユーゴスラビアのベオグラード大学文学部宇の日本語学科出身で、去年の4月から今年3月まで、中央大学文学部史学科(日本史専攻)に交換留学生として1年間、在学しました。いままで『Hakumon ちゅうおう』で、中大学生が留学先で書いた文は読んだことはありましたが、広報部の方から「逆に外国人留学生のまとまった文が出たことがないので、ぜひ書いてほしい」といわれました。帰国の支度で忙しかつたのですが、自分の滞在記録にもなると思って「この1年間に考えたこと、行動したこと」を書きました。「量はあるけど中身がない」かもしれませんが、私の日本印象記のつもりです。どうぞ読んでください。

## 留学1年 ニッポン丸かじり

「ぎょ(ち)ちない態度、早く変えて」

### 【中大生観】

## 日本語力ほしい日本学生

日本の入学試験は難しいとよくいわれますが、ユーゴスラビアも同じです。また、私たちも全然重要ではないことを時々勉強させられています。でも、日本の場合は勉強する方法が問題ではないかと思えます。つまり、日本は資料を記憶することは必要だと思われているようですが、自分で論理的に結論づけるのは支持されないとします。すべてが計画通りにいくはずがないので、問題が急に変わる場合、日本人は困ることが多いのではないのでしょうか。日本人は創造力が不足だと思えます。

このほかに日本人はシャイだという人が多いですね。これは早くから分かりました。歴史の授業を受けていて、150人ぐらいのクラスで、1年間に2〜3度しか声をかけられたことがあります。その人の横に座つたら、その人の不安を良く感じ取ることができました。何度も孤独感を味わわれたので、私は講義に行くのがどんどん嫌になっていきました。

でも12月最後の授業で、私はユーゴスラビアの90年代の事情について発表しました。そうしたら誰ひとり居眠り(ユーゴでは考えられない)しなかっただけでなく、ポカーンとした顔をしていました。初めての日本語による発表だったので、私は言いたいことが皆が理解してくれただろうかが分からず、イライラしていました。発表が終わって「質問ありますか」と聞いても沈黙は続きました。でも、そのあと一人一人が私のところへやっ

て来て「おめでとつ」と声をかけてくれました。私の言いたかったことが理解されたようなのでホッとしました。

「外国人は早く日本の習慣に慣れなければならぬ」という人が多いようですが、逆に日本人が外国人に対するごちない態度を早く変えなければいけないでしょう。学生たちがわからないと留学生にもその緊張が伝わってきます。絶えず新しい環境で刺激を受けているわけですから、日本語力にもっと自信を持つことが大切だと思います。日本にいる留学生にとっては、これが案外、大きな問題だと思っています。

日本の学生はなかなか友だちになれませんでした。また、留学生と友だちになりたがっている日本人は、英語の相手を欲しがっているだけの理由で、親切にしてくれるだけの人が多いようです。私の場合、教室での友だちは半年後にやっとできました。いまは留学生生活も楽しくなりましたが、その前は寂しくて悩んでいました。中央大学のような環境で、いろいろなサークル生活を楽しめる学生をいつもうらやましく思っていました。

## 【カルチャーショック】

### 電子辞書が〃電池自転車〃

いま振り返ってみると、中央大学に1年間勉強したことはとても役に立ったと思います。留学経験のある方は分かると思いますが、留学というのはとても楽しいことですが、苦労がいろいろあることも1つの部分だということなんです。初めて日本へ来たときは日本語をあまり話せなかったけど、「以前にも日本へ来たことがある」という安心から、それほどカルチャーショックを感じないのではないかと思っていました。しかし、それは思ったより強かったです。たくさん面白いこともありました。私はどうしてわからないことが2つありました。

まず、ユーゴではお店に入ると、店員もお客さんも「こんにちは」と同

じ挨拶を交わす習慣があります。子供の頃に学んだことは、いつまでも頭に残っていて自分の生活に強い影響があるものです。私は日本の「Family Mart」に入った時、店員が「いらっしやいませ」というので、お客の私は思わず「いらっしやいませ」と答えてしまいました。すると店員の彼は、びっくりした顔をして、次にニコニコ顔になりました。きっと私を「ヘンな外人だな」と思ったのでしょう。

2つ目は、新宿のキノクニヤに電子辞書を買に行った時、私は「電池自転車がありますか」と聞いてしまいました。当惑した店員は、私の質問を何度も大きな声で繰り返しました。自分のミスを気づかずに、私は「ハイ、そうです」と答えました。するとお店の人たちから、いつせいに大声で笑われました。そのうち、私もその意味がわかって皆と一緒に笑っていました。

## 【日本はいい所ばかり】

「〜とと〜」:「〜はいい

楽しいこともたくさんありました。とくに私は旅行するのが大好きで、北は札幌から始まった新潟、長野、山梨、名古屋、関西と行きました。九州、四国、沖縄にも行きたかったのですが、1年の滞在ではとても無理でした。どこが良かったかというところ、それぞれが特殊な良さがあるのでいいきれません。

札幌の雪祭は夢を見るほど良かったし、人々はとても親切で聞き取りやすい日本語を話してくれました。外国人にとって一番ありがたいことでした。新潟県の雪景色も期待以上に素晴らしかったです。子供のころからそんな白さを見たこともなく幸せな思い出ができ、とても嬉しかったです。長野の空気と自然はとてもきれいで、のんびりするには最高のところだと思います。名古屋は「こちゃこちゃ」しているけど、東京のように緊張感が感

じられなかったので、日本の都市の中では一番気に入りました。

関西には5年前にも行ったことがあります。何度行っても特別なところだなあという気がします。大阪にお花見に行きましたが、その素晴らしさは言葉に言い表せないほど興奮しました。多数の満開のサクラがまるで大阪を天国のようにしていました。神戸は建築面で一番きれいな都市だと思います。食べ物もとてもおいしくて話は面白い。「〜とん」という言葉は意味が分かりませんが、後で「〜していませんか」ということだとわかって、「これは面白い」と大いに気に入りました。

京都と奈良は世界で一番きれいな都市です。友だちから「あそこへ行くたびに、イエレナはいつも顔をピカピカさせて『ここは仰天する町だね』っていうね」といわれました。みんな大好きです。好きな街か場所を1つ選択するということは大変難しいことです。

ドイツ語研究室の皆さん、ありがとう！ EWICK先生のゼミの級友、ありがとう！ 中大の友人の皆さん、ありがとう！ そして先生たち、ありがとう！ ありがとうございます！ 中央大学に本当に感謝しております。中央大学のおかげで留学の素晴らしさを体験できましたし、比較文化と文化の交流に関して皆さんのことを教えていただきました。この1年間を大切な思い出に、ユーゴスラビアに戻って、大学院へ進むための勉強をします。

中央大学の発展と皆さんの幸運をお祈りします。(2001年5月1日記)

ファーストフード店の

「カーネルおじさん」(左)



## 〈留学生データ一覧〉

2001年度交換留学生派遣募集大学(12カ国30校)

2000年度認定留学生派遣先(実績)

外国人留学生数(在籍者内訳)

国名	大学名
オーストラリア	フリンダース大学
オーストラリア	オーストラリア国立大学
韓国	高麗大学
韓国	延世大学
韓国	中央大学
韓国	成均館大学
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校
アメリカ合衆国	イリノイ大学
アメリカ合衆国	カールトン大学
アメリカ合衆国	ベネディクティン大学
アメリカ合衆国	メアリヴィル大学
イギリス	シェフィールド大学
イギリス	スターリング大学
イギリス	ウェールズ・カーディフ大学
イギリス	ヨーク大学
スウェーデン	ストックホルム大学
オランダ	マーストリヒト大学
ユーゴスラビア	ベオグラード大学
ドイツ	ヴェルツブルグ大学
ドイツ	チュービンゲン大学
ドイツ	ベルリン自由大学
ドイツ	フンボルト大学
ドイツ	オスナブリュック大学
フランス	エクス・マルセイユ第Ⅲ大学
フランス	ロベール・シューマン大学
フランス	リヨ(Ⅱ)・リュミエール大学
フランス	トゥールーズ・ル・ミラユ大学
フランス	パリ高等商科大学
中華人民共和国	南開大学
タイ	タマサート大学

国名	大学名
オーストラリア	フリンダース大学
中華人民共和国	中国人民大学
中華人民共和国	清華大学
タイ	ウボンラチャタニー大学
インドネシア	アングラス大学
アメリカ合衆国	インディアナ大学ベンシルベニア校
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学ブロッカー校
アメリカ合衆国	カリフォルニア大学チコ校
アメリカ合衆国	セントラルコネチカット州立大学
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学ジェネシオ校
アメリカ合衆国	ニューヘブレン大学
カナダ	ラベル大学
カナダ	トレント大学
イギリス	ブラッドフォード大学
イギリス	ロンドン大学 SOAS
イギリス	リーズ大学
イギリス	キール大学
イギリス	エセックス大学
ドイツ	ゲッティンゲン大学
フランス	パリ第7大学
フランス	トゥールーズ・ル・ミラユ大学
フランス	フラッシュ・コンテ大学

国籍	人数
中華人民共和国	190
韓国	171
台湾	33
イギリス	10
タイ	8
フランス	7
マレーシア	6
ドイツ	4
フィリピン	3
ミャンマー	3
モンゴル	3
ウズベキスタン	2
オーストラリア	2
ベトナム	2
ユーゴスラビア	1
スウェーデン	1
カナダ	1
ベネズエラ	1
ベルギー	1
マケドニア	1
ラオス	1
ロシア連邦プリアート共和国	1
合計	452

(「2002年度ハンドブック」より)